

講演②：「韓国の日本語教育とスタンダード構築への展望」

鄭起永（釜山外国語大学校教授）



1

韓国における日本語教育

2

**減少する日本語学習者**

日本語学習者の約9割を占める初中等教育において・・・

**2010年までは第二外国語が必修**

↓ 2009年改訂教育課程(2011年施行)

**第二外国語が必修科目から除外**

<2010年の時点で既に日本語クラス数が17.5%減少している>

機関の方針で日本語学習 → **学習者の減少**

第二外国語が必修科目から除外

3



4

## 日本語学習者数



**約96万人**  
 【世界の学習者数の26.4%】  
**学習目的は？**

5

## 日本語から中国語へ



**孔子学院の増加**  
 【韓国全土に21ヶ所】

**HSKの知名度上昇**  
 ※ HSK=中国漢語水平考査

网络孔子学院  
<http://cimsa.chinese.cn/>

6

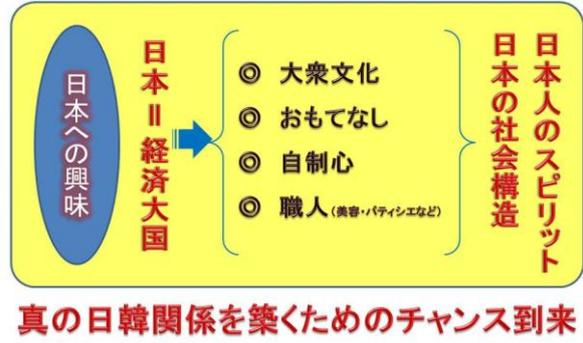


## このままでよいのか？



7

## ピンチこそチャンス



8

## 学習環境の見直し

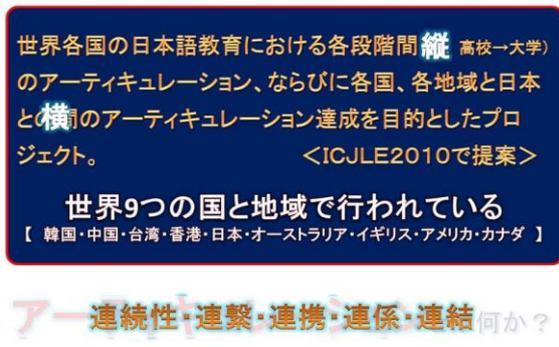


9

J-GAP

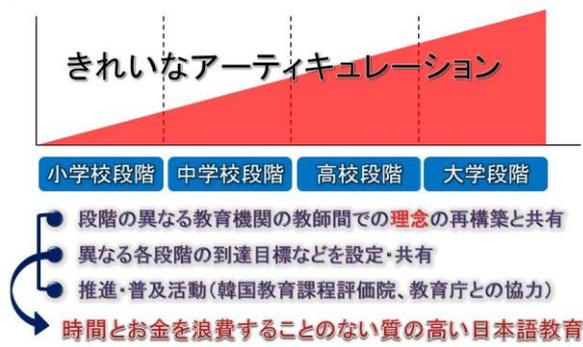
10

## J-GAPの発足



11

## J-GAP韓国の活動



12



システムの再構築(スタンダード化)



13



14

J-GAP韓国2011

- 中学校、高校、大学の日本語教師
  - 教育庁、評価院など政治力のある日本語教育関係者
  - 国際交流基金の専門家
- 普段定期的に会うことのない日本語教育関係者で・・・
- ★ 現状、現場での悩み、要望等の話し合い
  - ★ 各段階の到達目標についての情報交換
  - ★ アーティキュレーションの可能性についての議論
  - ★ JF日本語教育スタンダードのワークショップ等の開催

15

J-GAP韓国2012

- 教師個々の理念の確認と共有
  - 韓国で日本語教育を行う意義の再確認
  - J-GAP韓国2012の理念構築
- 理念をもとに・・・各々ができることから
- ★ 中等教育：新教材の分析と到達目標の設定
  - ★ 高等教育：卒業時の到達目標設定／大学内での連携
  - ★ 全体：各段階におけるCan-Doの収集
- 教師・学生の意識改革 ⇒ 質の向上へ

16

J-GAP韓国2012活動グループ

カテゴリー	グループ
中等教育 (モデル校6校)	中学校日本語教師(モデル校2校)
	高校日本語教師(モデル校3校)
高等教育 (モデル校6校)	釜山外国語大学校
	釜山大学校
	釜慶大学校
	新羅大学校
	釜山科学技術大学校
各国の現状 (教育課程やスタンダード)	アメリカ
	オーストラリア
	韓国
	中国・台湾
	東南アジア
	CEFR, JF日本語教育スタンダード

17

釜山外国語大学校の  
取り組み

18

◎◎ 釜山外国語大学校アジア大学 ◎◎

学部 →	コミュニケーション日本語	ビジネス日本語
学生数	約900名<220人×4学年>	
教員数	31名(韓国人15名、日本人16名)	
専攻	言語文化・通翻訳	ホテル観光・ビジネスIT
科目数	44科目	44科目

19

コミュニケーション日本語学部				ビジネス日本語学部			
学年	授業科目	単位数	担当	学年	授業科目	単位数	担当
1	日本語基礎Ⅰ	2	韓/日	1	日本語基礎Ⅰ	2	韓/日
2	日本語基礎Ⅱ	2	韓/日	2	日本語基礎Ⅱ	2	韓/日
3	日本語基礎Ⅲ	2	韓/日	3	日本語基礎Ⅲ	2	韓/日
4	日本語基礎Ⅳ	2	韓/日	4	日本語基礎Ⅳ	2	韓/日
1	日本語文化Ⅰ	2	韓/日	1	日本語文化Ⅰ	2	韓/日
2	日本語文化Ⅱ	2	韓/日	2	日本語文化Ⅱ	2	韓/日
3	日本語文化Ⅲ	2	韓/日	3	日本語文化Ⅲ	2	韓/日
4	日本語文化Ⅳ	2	韓/日	4	日本語文化Ⅳ	2	韓/日
1	日本語実務Ⅰ	2	韓/日	1	日本語実務Ⅰ	2	韓/日
2	日本語実務Ⅱ	2	韓/日	2	日本語実務Ⅱ	2	韓/日
3	日本語実務Ⅲ	2	韓/日	3	日本語実務Ⅲ	2	韓/日
4	日本語実務Ⅳ	2	韓/日	4	日本語実務Ⅳ	2	韓/日
1	観光実務演習	2	韓/日	1	観光実務演習	2	韓/日
2	観光実務演習	2	韓/日	2	観光実務演習	2	韓/日
3	観光実務演習	2	韓/日	3	観光実務演習	2	韓/日
4	観光実務演習	2	韓/日	4	観光実務演習	2	韓/日

20

**現状①**

同一科目のクラス数が多く、科目名は同じでもクラスによってレベルに差が生じている。EX)「初級日本語会話Ⅰ」が15クラス

ゼロで入学してきた学生とN1保持者が同じクラスに入る可能性があり、ゼロの学生は圧倒され、意欲を喪失し、既習者も時間を浪費している可能性がある。

21

**現状②**

復学(兵役、留学・WH)、転科、編入等の学生をケアするシステムが整っていない

「3年ぶりの大学なので・・・」と学生は困惑し、教師もその学生についての情報を得るまでに時間がかかってしまう。

22

**現状③**

科目間の連携、学部教員間の連携不足

科目は多様で魅力的ではあるが、高学年用に開設されている専攻別技能科目を受講するレベルに到達できないまま受講している学生が多く、結局、学生たちのモチベーションを低下させることになっている。

23

**現状④**

科目の追加・削除、科目名の修正などが2年ごとに行われる現状のカリキュラム

常に新しいものに接し、新鮮ではあるが、カリキュラムが安定しないため、よいものが深まっていけない。「今年、受講しようと楽しみにしていた科目がなくなっていた」という声もある。

24

教師個々の努力だけで、解決できる問題ではない。

「日本語学部」に憧れて入学してきた学生の希望や夢を叶えるためにはシステムの再構築が必要。

横のアーティキュレーションが必須  
(教員間・科目間・大学～学部間)

25

### ◎ 取り組みと新カリキュラム ◎

- ★ 教員の統制(大学にもルールが必要)
- ★ 教員育成・情報共有の場の構築  
→ 教員間の悩み相談会(週2時間)
- ★ 教員⇔学部⇔大学の連携

言語習得科目の段階別授業へ

26

## おわりに・・・

韓国の日本語教育界にいま必要なこととは？

教師一人一人の理念と目標  
+  
韓国における日本語教育機関・教師の共通の理念

そのための共通の基準として・・・

スタンダードの確立

27

Маш их баярлалаа !

<http://j-gap.wikispaces.com/>

28

## 質疑応答

Q1 小学校から大学までの学習時間数(単位数)及び目標は？

A1 <学習時間数(単位数)>

小学校：必修科目ではなく、各学校で授業後のクラブのような形で行われているため、時間数は決められていない。各学校で決めている。

中学校：週3単位

高校：週4～6単位

大学：各大学で異なるが、日本語専攻の場合は7.9単位。日本語副専攻の場合は3.5単位。複数専攻の場合は4.6単位。

<目標>

小学校：各学校で決めている。

中学校・高校：日韓の理解のための交流、意思疎通。

大学：各大学で決めている。